

聞き書き その8 [陸軍憲兵からキリスト教牧師へ] 2016/6/30

七塚町浜北（かほく市浜北）恵泉教会牧師故北弘二さん長男圭一さんより聞く
父は旧日本陸軍憲兵曹長だった。明治42年9月宇ノ気町気屋に生まれ昭和5年3月に旧
七塚町浜北 北家に婿入りした。

当時、近衛師団歩兵第一聯隊に勤務していたので近衛兵の軍装で馬に乗って婿入りしたと
聞いている。

昭和7年、憲兵科に転じ憲兵隊赤坂分隊、翌年小笠原父島に派遣、昭和11年上海憲兵隊
に配属され外国人関係の情報収集のため出入りしていた教会で松村牧師から影響をうけ
た。

当時、キリスト教を敵性宗教として憲兵は監視する役目であった。

それにも屈せず昭和15年3月31日に上海聖教会で洗礼を受けた。

その動機は上海憲兵隊の酒、女、金など堕落していた様子に、まわりの人たちが「憲兵を取
り締まる憲兵はいないものか」との苦言に潔癖な父が生きる道を求めてと思われる。

日米開戦後まもなく敵国の宗教キリスト信者は軍務に不相当として職務を解かれ帰郷した。
郷里に帰った父は家業を継がず七塚役場、宇ノ気の飛行機製造工場に勤務し一人で伝道に
励んでいた。

井口記

昭和23～24年頃、米屋から織物業に転じていた北家の工場二階に日曜学校が開かれ子
供達が集まり聖書のお話、賛美歌の練習、たまに来る外国人宣教師が珍しかった。

当時外国文化に接する唯一の機会であり外国人宣教師から配られた分厚い金表紙の英語聖
書が「読めないから」と回収され大変がっかりしたことが記憶にある。

たまにはチョコレート、ガム等頂くこともあった。

トラックのガソリンの匂いが好ましく皆で嗅ぎに行った、文明開化の匂いであった。

当時の資料では日曜学校参加者一回平均25名で信者祈祷会13名の2倍近い盛況だった。

又、高山右近の影響もあつたのか城下町金沢で武士、町人が共に秘かに降誕祭を祝ったこ
となどのお話が印象に残っている。「日曜学校卒業生の文集に記録あり」

北牧師は容貌は外人そっくりで美男子であり70年たった今もはっきり思い出せる。